

# 長田下地域 振興会だより 第30号

2017年(平成29年)11月23日発行

## 第14回ふれあい運動会 10月8日

薄陽の差すさわやかなお天気のなか、下長田集会所で110名の参加がありました。6区常川哩玖くん・楓真くんファミリーの開会宣言、水附さん・高伏さんの選手宣誓で幕をあげました。

今年は「グランドボーリング（ビール瓶倒し）」は、手投げから蹴って瓶を倒すようになり、これには皆さんかなり苦戦されていました。「早くいっぱいになーれ（水入れ競争）」、「長いのがお好き（ひも結び競争）」などの恒例種目は「あ〜」「わあ〜」と歓声に包まれました。また、グラウンドの外でも桜の木に巻きついたアケビを手にした子どもたちが喜んでいました。そして、5区の中村悠吾くんが、「玉入れ」が一番楽しかったと感想を交えて閉会宣言をしてくれました。（玉入れは50個以上入れたチームもありました。）

昼食のうどんをはじめ、準備・当日進行して下さった多くの皆さん、大変お世話になりました。

(担当T. K)



常川ファミリーの開会宣言



子ども会用テントにて  
老若男女の「グランドボーリング」

## 向原地域敬老会 10月21日

10月21日（土）、向原生涯学習センター「みらい」で行われました。  
今回参加された方280名のうち、下長田地域より37名の方が参加されました。  
開会挨拶の後、100歳以上の方11名の紹介がありました。

祝電披露の後、「向原こぼと園年長園児のこぼと太鼓」「向原小学校6年生の桜太鼓」、「民謡」・「剣舞」・「オカリナ演奏」・「人形劇」、そして「安芸長田明神一座の人情時代劇（戻り橋 時次郎）」が上演されました。

お孫さんが出演されていたり、各団体も熱演され、みなさんとても楽しんでおられました。今年も、長田下地域は、他の地域に比べ大変多く参加して頂き、ありがとうございました。

(K. M)



「向原小学校6年生の桜太鼓」

## 「おかげんさん」 7月15日 中長田集会所にて

本格的な夏を迎える時期、この季節の暮らしの平穏を祈念する「おかげんさん」を今年も行いました。  
この祭りは、平清盛が始めたとされる宮島の管弦祭が、厳島神社寄進の「長田郷」でいつしか「おかげんさん」と称せられて行われて以来の伝統ある夏の行事です。

今年は直前に会員の方のご不幸もあり、提灯行列をやめて集会所内だけの控えめなものとなりましたが、この地域住民の皆さんの健康と安全への願いは参加者の方々と分かち合うことができました。

関係方々の皆様のご尽力に感謝いたします。 (T. K)



2017/07/15

## 【協賛行事】

### 好天に恵まれて「ひとはまつり」盛会 8月26日

ここ数年、雨天に悩まされていた「ひとはまつり」は、日和に恵まれて大いに盛り上がりました。この祭りは「ひとは」を利用する人たちの自治会である「きらら」の主催です。

「きらら」の人たちのモットーは、「できることは自分たちで、できないことは人の手を借りて」です。実際、当日までの準備にはそれぞれの事業所が役割分担を決め準備に汗をかいていました。障がいの重いといわれる人たちも椅子一つを支援者と一緒に運搬し、自分のできる役割をしっかりと果たしていました。

そのことが実を結ぶためには、自治振興会をはじめ家族の会やもろもろの応援団の下支えがなくてはなりません。今回も応援団はそれぞれの分担部所に配属されている「きらら」の人たちを前面に出しながら、しっかりと「きらら」の人たちの達成感を支えました。

はじめて広島市内から参加をしたという親子が、「施設でもこんなイベントができるんですねえ」と感想を述べてもらったことは、この地域あってこそです。いつもイベントのたびに感じるのですが、「ひとは」にとって、地域と家族会は替えがたい宝です。 (B.T)



### 6回目の地元公演（安芸長田明神一座） 9月23日

9月23日（祝）、安芸長田明神一座による人情時代劇が、4年に一度の地元公演ということで、中長田集会所において公演されました。

地域の皆さんによる太鼓、詩吟、踊り、剣舞の出演に続いて、安芸長田明神一座による「戻り橋 時次郎」が公演されました。笑いあり・涙ありの熱演に、観客の皆さんのひと際大きい声援が飛んでいました。

出店についても、夢かたくり、ひとは福祉会、六風会、明神女性会の皆さんも協力されていました。

今回も長田下地域自治振興会の役員の皆さんは、舞台・会場作り・後片付けに協力されました。

地元の人達による、そして、地域の人達に支えられた地元公演というこうした活動が、地域の

活性化につながっているのではないのでしょうか。 (K.M)



## 子ども会、地域と共に

去年のキャンプが好評だったので、この夏も遠出せずに“下長田の山と川で遊ぼう”と題して地域でできることを計画しました。

来年度から合併することを見据えて、上長田子ども会（長田1・8・2・3区）の6家族と下長田の9家族の総勢47人が集いました。

7月23日（日）に、ちゃらんの広場に集合して自己紹介の後、「尼子三兄弟ゆかりの墓」に向かいました。ちゃらんの広場から下長田集会所に場所を移し、数名のお父さんには釜でご飯を炊く準備をお願いしました。

戻ってきたみんなをみると、親のほうがバテ気味でした。子どもたちは親と一緒におむすびを握ったり焼きそばの野菜を切りました。切った具材を中学生男子が炒め、お父さんが手際よく麺とあわせて男子焼きそばが出来上がりました。

スイカ割りで、大いに盛り上がった後に、すぐ横を流れる本谷川で川遊びを楽しみました。最後に、ひとはのアイスのをせたクリームソーダにみんな笑顔でした。

この行事では、地域の多くの方にお世話になりました。地域活性化委員会（6区有志）の方々には、川遊びするには整備されていて水深が浅かったため、堰き止めて水を溜めて頂きました。

また、お釜と簡易くどをころよく貸して下さった方、子どもたちの声を耳にされてジュースを差し入れて下さった方、皆さん本当にありがとうございます。地域で活動することの意味をかみしめることができました。

夏以降もそばの種まきに参加したり、今年で3回目のハロウィンの仮装（雨天のため屋内で）を小学生中心で楽しみました。

7月の行事では、カンカン照ることもなく桜の木陰で暑さをしのぐことができましたが、振興会助成金からテントと長机を子ども会のために購入して頂きました。（運動会にて披露）有意義に大切に使用させて頂きます。重ねて感謝申し上げます。（T. K）



6区有志の汗の結晶



もみじの手を合わせて



暑さにも負けず



自然のプールを満喫



割れるかなあ

## 「長田下地域の文化財保護と伝承」について考える②①

今回は、長田6区の石井谷にある『火の宮さん』について調べることにしました。

古地図には、長円寺の北東1000メートル足らずの山中にしろしがありますが、広報委員はだれも見つける自信がありません。そこで、昔、『火の宮さん』の再建に中心となって世話をされた竹岡秀夫さんをたずね、道案内をお願いしたところ、体調を崩しておられたので、その山道に詳しい柿藤義明さんをお願いしていただきました。柿藤さんは、ご多忙の中、快く道案内を引き受けてくださり、『火の宮』をめざして、さぐりさぐり、みんなで登っていきましたが、再建当時と違い、30年近くたつと、山の様子がまるっきり違い、なかなかだどりつきません。

そこで、日をかえて、竹岡さん夫婦にもお願いして、体調不良を押して道案内をしてもらい、やっと、目指す『火の宮さん』にだどりつきました。参加したみんなで拝礼し、大きさを測り、下山しました。

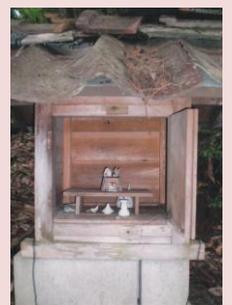
下の写真でも分かるように、横幅約48センチ、奥行42センチ、高さ78センチ、台座はブロックを3段重ね、屋根までの高さが96センチあり、とても精巧にできていました。再建年月は、『平成2年1月』と書いてありました。30年余り風雨にさらされても、しっかりとしていました。堅固な木組みをされたのは、大工の棟梁で、長田4区出身の雛田猛さん（現在、戸島にお住まい）で、前号の『薬師さん』も雛田さんが造られたものだそうです。木工技術の腕の良さに、とても感動しました。

竹岡さんは、「先祖がまつっていた『火の宮』が朽ちて倒れそうだったので、薬師堂再建の時、集めた寄付をもとに、ふもとで、組み立てて、地域のみんなで、難儀をして担ぎ上げたのだ。もちろん、土台のブロックも、1つ1つ担いであげて、この屋根に、建立したのだよ。」と、社を見ながら話して下さいました。こうした文化財を、昔から地域の人たちは、大切に崇拜し、保存に努力していたのですね。

『火の宮さん』は、町内各地にもまつてありますが、里人の山林や家屋を火災から守ってくださるしょうし小祠（小さな社、ほこら）のことです。『火の宮』の総本社は、京都市右京区嵯峨愛宕山に鎮座する『愛宕権現社』で、ワカムスビノミコトなど5つの神や、イカズチノカミなど3つの防火神がまつてあるそうです。

長田6区の言い伝えには、昔、村人が、この『火の宮さん』をいたずらして、他の場所へ移動させたところ、たちまち山火事が発生したので、あわてて社をもとにもどしたら、火事がおさまったそうです。それからというもの、村人は、『火の宮さん』を勝手にいじらなくなり、大切に拝むようになったということです。

道案内役を引き受けて下さった竹岡秀夫さん、奥さん、そして柿藤義明さんに心からお礼を申し上げます。（F. T）



現在の「火の宮さん」



昔の「火の宮さん」



建立当時の「火の宮さん」

# 長田下地域人物伝⑮

～増田正省さん（4区）～

長田4区の増田正省さんから話を伺いました。

今年8月に、めでたく古希を迎えられ益々のパワーアップを目指して、コメ作りと会社員として日々頑張っておられます。

人生70年を振り返れば、色々な経験をされてきたそうです。

向原高校時代は、レスリングで二度国体に出場し活躍されたそうです。社会人になってからは、自動車学校の教官・営業・居酒屋経営等、様々な仕事を経て、現在は、会社で生産性を上げる改善活動や中国からの研修生の教育を行っているとのことでした。

また、明神クラブを母体として平成10年に立ち上げた安芸長田明神一座の座長として、今年は4年に一度の地元公演を9月23日に行われました。6回目の地元公演になるそうです。

10月21日には、向原地域敬老会実行委員会から依頼され、向原生涯学習センター「みらい」においても、公演されました。両方とも、演目は「戻り橋 時次郎」で、時次郎を演じられました。

長い台詞を覚えるのが一苦勞で、これから先いつまで芝居を続けられるか不安ですが、観客の大きな拍手・感動の涙に励まされ、地元の皆様に少しでも喜んでいただけるように、精進していきたいと思っておられるそうです。

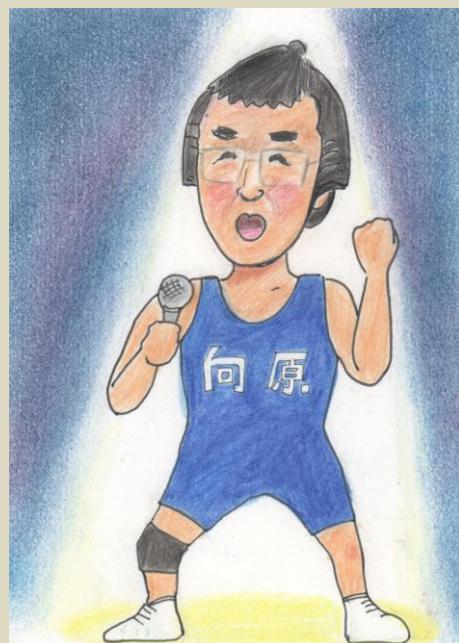
明神クラブ団体を代表し、2014（平成26）年から長田下地域自治振興会役員として、多忙な中、地域のふれあい更には発展のために活動しておられます。

これからも、大いに地域を盛り上げて頂きたいと思います。

ふれあい発表会での悠長で軽快な名司会ぶり、あるいは振興会の運動会におけるメリハリが効いた名審判部長ぶりは、地域ではお馴染みとなっています。

これからは、奥さんとの夢でもある日本一周の旅ができるように（お酒もほどほど？にして）、健康に留意していきたいと話しておられました。

元気に活動されている増田さん、これからも地域のために益々盛り上げて頂きますよう、そして、夢が叶いますよう、祈念しております。（K.M）



川柳 三句

中村 人司

・CSでがっくりし ドラフトではびっくりし

・米づくり 鹿と草とで くたぶれ儲け

・寒さ増し 山は色変え 人は衣替え

※ 中村さんは、新聞社などに川柳を投稿されている方です。